

植物採集雑記

若山治男

私は山草類の栽培をやっているもので、毎年各地へ探草を兼ねて採集に行く。採集は春の芽出しや花の時期のみに限った事ではなく冬でも行く。それには植物学も必要で、枯れた葉とか茎、または根を見ただけでそれがどんな植物であるかを見極めるだけの知識が必要となって来る。それにいたって不勉強ではありますが諸先生方のお教を誌上をもってお願い申したい。栽培品はほとんど観賞用の植物で採集地にどんな植物があるか少しでも参考になれば光栄である。

紀州へエビネを求めて

4月8日南海難波10時発の汽車に乗る。この列車は紀勢線と歌山で連結されるから長い列をつくって天王寺駅で待つ事なく座れるからである。汽車は翌朝5時10分新宮に着く。採集は大阪の草友と4人である。新宮より採集地の七色峡^{ナナイロ}へ行くバスはまだ2時間も待たなくてはならず、帰りの汽車の時間の都合もあり、これに間に合うには現地の採集時間があまりにも少ないのでハイヤーを飛ばすことにする。3時間20分で七色峡に着く。昨夜の雨は少し小降りであるが、車から降りると皆雨衣を着る。上流ではダム工事をしている。この川は北上川の支流で兩岸は岩また岩で濡れた岩を歩くと迂りやすい。川岸近くなる岩間にはもうイワチドリの大群落で30株程が1塊りとなって咲いている。あたり一面には私達がよんでいるチャボソライトソウ、クマノツツジの花盛りで実に美しい。汽車の疲れもふっとんでしまう。岩上にはその他の植物スゲ類、それに交ってイワギボウシ、イワフジ等がある。立っている岩は皆、那智黒とよんでいる真黒の岩で碁石や硯に加工される。採集も充分ビニール袋につめて陸^{オカ}に上る。雨はまたひとしきり降って来たので民家の軒先を貸りて昼食にする。時々ダム工事のハッパの音が静かな七色峡にこだまする。1時30分バスが来たので新宮に引き返す。新宮の大橋より岸を見れば、客も無く名物のプロペラ船は濡れて繋かれたままである。私達は新宮より今夜の宿である椿に向う。途中の沿線の名所を車窓より眺めながら椿駅に着く、ハイヤーで椿温泉へ、途中自転車に乗った老人が大きな生鰹をハンドルに吊下げてやはり温泉宿の方へ行く、どこか今夜の宿の料理に出るものと話し合う。宿に着き浴衣と着替え早速湯に入る、硫化水素の由である。湯より上り夕食の膳に

つく、膳の上には車より老人が持っていた生鰹の作りが大きな皿に盛ってある。私達の食膳に出るとは思わなかったが、新鮮な生鰹の作りで冷たいビールはうまい。宿は上等な旅館ではない採集行にふさわしい宿で、新聞を広げて採集品の整理をして塵を出しても気兼ねのいらぬ室である。これは釣客の宿で別館となっていて室料も1室400円で、料理は好みのままで風呂は本館の方へ行き、1泊3,000円の客と同じである。明日の採集の相談をしているところへ私の草友が田辺よりやって来た。前もって頼んでいたので明朝来るより今夜の方がよいので来たと言っている。車を持っているので都合がよい、翌朝7時宿を出る。今日の採集はエビネで、この辺のはキエビネで、海岸寄りには黄色で、山奥へ入ると普通のエビネとなっていて、その間がキエビネとヤブエビネの交配した雑種、外弁樺色で舌弁白色、外弁黄色で舌弁桃色、外弁橙色で舌弁白色、外弁舌弁とも緑色と厳密に調べたら1株ごとに花色が変化していて観賞価値も充分である。椿の採集はキエビネが目的で各自大きなビニール袋に2袋も3袋も持っている。車はステートワゴンで、車の後に積み込んで宿に帰る。翌朝は周参見方面のシダ植物でエビネがあればついでに採集する事に話し合う。海岸より十数キロ奥へ入る。小さな滝の前で車を降りこれより採集に山の中へ入る橋の所にはユノミネンダ、天然記念物のリュウビソウ等が自生している。向い側の岩壁にはホンジャクナゲが咲いている。川に沿って歩くとヒカゲツツジ、イワナンテン、ガンセキラン、シラン樹林の岩壁にはヒノキノダの大群落である。樹林下の涼しい場所にはキリンマエビネの涼しそうな空色の花を咲かせている。匂が強く私達栽培家はこれを匂いエビネと呼んでいる。またこうした日陰の涼しい場所にナツエビネの大株が点々と自生している。所々にはサイゴクミバツツジが美しく咲いている。花色も濃く花も大きい。紀州での3日間の採集品は我が庭に植え込み来春の花時が待ち遠しい。

相野へシロバナトキソウを求めて

三田駅より2つ西に福知山線相野と言う駅がある。駅より20分歩いて相野の西に藍小学校がある。この学校の前の畔道を山中に向うと大小5カ所程の湿地帯に出る。この湿地の中にはトキソウ、モウセンゴケ、イシモ

チソウ、サワギキョウ、ノハナショウブ、ミズトンボ、ミズギボウシ、サギソウ等の植物が自生しているが、私の目的はこのなかのトキソウの白花を探しているので、幾十本の中によく2本探し出した。サギソウはもう腰をおろしていても50本は楽に採集出来る程の群落である。目的を達し帰ろうと湿地を歩いていると目の前に2m程もある黒い蛇に出会う、私を見ても逃げようとし

ない、こんな大きなものは見たこともない。危険があつてはと、こちらより逃げることにする。湿地植物の採集はよくこんな蛇に出会う。これは湿地に居る蛙を食べに出てくるので危ない。マムシなんかもよく見かけるが決して相手にせず、こちらから廻り道をして歩くことが無難である。